「精子提供」サイト 数多く

岡山大の研究チームが2018年、不妊治療をする全国の医療機関に匿名で回答してもらった調査によると、ＬＧＢＴＱの当事者に医療を提供したことがあったのは、回答した492施設のうち４施設。全体の１％にも満たない。

こうした中、インターネット上には「精子を提供します―」と呼び掛けるサイトが数多く存在する。顔写真入りで紹介しているものもある。

東京都の西園寺優さん（30代、仮名）は自身のサイト「精子提供.jp」で依頼を受け付けている。西園寺さんによると12年前から活動を始め、約100人に提供。交通費などを除けば無償。

妻と子ども２人と暮らす。活動は妻公認。定期的に行う性病検査、精液検査の結果のほか、学歴が分かる証明書などを公表し、依頼者には事前に面談を行う。知人へ提供した経験から活動に意義を見いだしたという西園寺さん。本来は「病院を通じて行われるべきだ」と考えているが、実現するまで続けるという。

ネットには「困っている人の助けになりたい」と動機を書き込む人も。「一流大学卒」「インターハイ出場経験あり」「俳優系」などの書き込みも並ぶが、真偽は不明だ。

順天堂大医学部非常勤助教で、男性たちへの取材経験がある入沢仁美さんは「自分を良く見せたいと、プロフィルを詐称していたり、依頼側が望まない性交渉を求めたりするケースがある」と話す。

精子を入手しやすい環境とも言えるが「親になる覚悟や生まれてくる子どものことをしっかりと考える時間が省かれてしまう恐れがある」と問題点を指摘する。トラブルを避けるためにも、公的な組織が精子の提供者を登録制にするなどして管理する仕組みが必要だと提言している。

信濃毎日新聞　2021年12月2日朝刊